

1. めざす学校像

「人の心を思いやり、仲間と心を1つにし、誰かのために動き出せる女性であれ」と教育方針に示された、高い志を持つ力強く逞しい女性、誠の心を持ち社会に貢献できる女性（至誠の人）を育成する学校をめざす。

- 1 確かな学力を得るために、学習活動を重視し、自己実現「なりたい自分」に向かうことのできる態度の育成
- 2 豊かな人間性と社会性を兼ね備え、個性や能力を生かすことの出来る女性の育成
- 3 自己も他者も認め、社会に貢献できる国際感覚豊かな女性の育成

2. 中期的目標

- 1 確かな学力の育成（生徒と教員が共に進化）
 - (1)学習指導要領、シラバスに沿った授業の充実

生徒の授業アンケートや保護者の学校評価アンケートの結果を十分に活用し、授業を充実させる。
※生徒の授業アンケートにおいて、全ての授業で授業満足度を 29 年度に 90%以上にする。
 - (2)一人ひとりの状況に応じた学習指導

中学での習熟度別クラス編成や高校でのコース別指導、及び看護進学・特別進学コース間での英語・数学の習熟度別授業の実施。
※中学の発展クラス、標準クラスに最適な授業内容を構築し、全ての生徒の実力(模試偏差値)が3年間で向上するよう、到達目標を設定し、達成のための対策を策定する。高等学校もそれぞれのコースに応じたカリキュラムの見直しを行い、28 年度より実施する。
 - (3)生徒が興味関心を持ち、自主的に取り組める学習

I C T の活用や中学の 7 つの習慣 J、高校での教養講座など、授業内容や指導方法の工夫改善を行う。
※保護者アンケートで、生徒の興味関心を深め、学習意欲を高める取り組みをしているとの肯定回答を 29 年度は 95%にする。(26 年 84%)
- 2 的確な進路指導とキャリア教育
 - (1)国公立・難関私立大学への合格者増

きめ細かい指導を行い、国公立・関関同立への合格者を増やすとともに、生徒の希望する進路の実現を図る。
※国公立・関関同立に合計 20 名以上(27 年度)を合格させ、29 年度には、それを 30 名以上にする。
 - (2)一人ひとりにあったキャリア教育を推進

進路選択の決定に当たり、生徒の希望や適性を見極め、保護者とも連携して指導する。
※保護者アンケートでの連携した指導や、具体的指導がされているとの肯定回答を 29 年度に 95%以上にする。
- 3 思いやりにあふれた温かい学校生活（生徒指導等）
 - (1)学校行事やボランティア活動、部活動を通じた社会性、人間性、及びコミュニケーション能力の育成

多くの学校行事や活発なクラブ活動を通して、自己肯定感、協調性、規範意識を保護者と連携しながら身に付けさせる。
※保護者アンケートでの肯定意見を 29 年度には 95%にする。
 - (2)教育相談の充実

生徒保護者に対するきめ細やかな相談体制を構築し、情報の共有や環境整備を行う。また人権教育に関しても年間指導計画に沿って指導する。
※保護者アンケートでの肯定意見を 29 年度に 95%以上にする。
- 4 研修等による教員の授業力向上(教員力アップ)
 - (1)効果的な教員研修や授業研究の実施

効果的な授業研究や校内研修を計画実施し、教員間での意見情報交換を活発化すると共に、ICT 教育やアクティブラーニングの研修も計画的に実施する。
※自己評価アンケートで 29 年度には 80%にする。

【自己評価アンケートの結果と分析・学校関係者評価委員会からの意見】

自己評価アンケートの結果と分析(平成 28 年 2 月実施)	学校関係者評価委員会
<p>【学習指導等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「生徒と教員が共に進化する」を合言葉に学力を高め、進路の保障へとつなげることを目指しているが、学習指導に関しての教員の自己評価は肯定意見 81%であるが、生徒の自己評価アンケートで 88%となっている。 ・ICT の活用に関し、検討委員会で議論し、28 年度からの一部導入や環境整備を推進しているが、まだ自己評価で 61%に留まっている。 ・教員のための授業参観を学期ごとに実施し、教員の肯定意見が 81%。 <p>【教員研修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己研鑽のための教員研修や勉強会を定期的に実施し、肯定意見が 78%に上昇。さらに教員の希望などを聞きながら研修の機会や情報を伝え、この数字を高めていくことで、授業力向上と生徒の学力向上につながると思われる。 <p>【生徒指導】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導に関しては、近年問題行動や指導案件も減ってきている。これは、学校として統一した生徒への関わりが出来ているからで、教員の肯定意見も 91%と高い。 ・PTA や同窓会との連携も図るよう努め、保護者の肯定意見も 88%。 <p>【学校運営】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域に開かれた学校にするべく、地域交流や施設開放を行っている。具体的には、地域での交流会への参加や、老人会との交流、本校施設の地域の方々への開放、また、「わくわく土曜教室」など実施し、自己評価で肯定意見が 73%となった。さらに推進したい。 	<p>○学習指導について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小テストや補習のきめ細かい実施は評価できるが、習熟度別での対応やオンライン教材の活用などを通して、生徒の学力をどう伸ばすのか、さらに検討し具体的成果を上げてほしい。 ・進路学習については、丁寧な指導と情報の提供を一層進めてほしい。 <p>○教員研修について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・先生方の授業力や指導力にかなりの格差があるように思われるので、研修等でさらなるレベル向上に努めてほしい。 <p>○生徒指導について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・信頼関係に基づいた指導をより進めてほしい。 ・中学での 7 つの習慣や高校での教養講座など、情操教育がしっかり行われ、評価できる。更に、生徒の自主性や主体性を伸ばしてほしい。 ・あいさつや服装などの指導も近年徹底されていて、安心できる。さらに、女性らしさと共に、遅く生き抜いていける力が身に付く取り組みを期待したい。 ・先生方も生徒も落ち着いて学校生活を送っている。 <p>○クラブ指導について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多くのクラブ・個人が全国レベルで活躍し、学校全体でクラブ活動が盛んなことは、生徒に好影響をもたらし、大いに評価している。 <p>○その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICT も含めて、教育環境の充実と、学校の魅力の発信に努めてほしい。

3. 本年度の取り組み内容及び自己評価

中期的目的	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 確かな学力の育成	(1)学習指導要領、シラバスに沿った授業の充実 (2)一人ひとりの状況に応じた学習指導 (3)生徒が興味関心を持ち、自主的に取り組める学習 (4)放課後や休日、家庭での学習環境の提供 (5)授業力アップのための相互授業参観の実施	ア 授業シラバスをHPで公開し、年間指導計画に沿った授業を展開する。 イ 授業アンケートを実施し、各先生からの授業改善報告書の提出を求め、授業改善を図る。 ウ 保護者向け授業参観(公開授業)を年に2回実施する。(6月10月)それ以外にも授業成果発表会を定期的に開催する。 エ 中学では、習熟度別クラス編成とし、高校でも科目内習熟度別授業を導入し、各自の状況に応じた、適切な内容の授業を行う。 オ 模擬テストなどを活用して学力の把握と定着を図る。 カ 勉強クラブ等で生徒の学習意欲を高める。 キ 教員のための授業参観期間を設け、外部講師による研修会の定期開催。	ア 自己評価で進捗を確認。肯定意見は93% イ 生徒授業アンケートを10月に実施し、その結果より各自の改善報告書を校長に提出。生徒の授業満足度は84%(26年度84%) ウ 保護者評価アンケートでの肯定意見84%(26年度89%) エ 保護者評価アンケートでの肯定意見82%(26年度84%) オカ 生徒の学習に関する意欲は生徒授業アンケートで85%。(26年度は88%) キ 自己評価で78%(26年度50%)	ア シラバスの作成公開は定着したが、それを生徒の学力向上と自主学習につなげていきたい。(○) イ 授業アンケートによる満足度は、前年度とほぼ同じ。ただ担当者によりばらつきがある。今後さらには授業改善の方策を講じたい(○) ウ 授業参観に関しては、参加者が増加。授業品質の保障が大切。(△) エ 全ての保護者の期待には応えられていない。よりきめ細かい対応をしたい。(△) オカ 主体的に学習に取り組む姿勢や意欲を高めるための方策を次年度さらに工夫し、授業アンケートで90%以上としたい。(△) キ 教員の意識と意欲の向上につながった。(◎)
2 的確な進路指導とキャリア教育	(1)国公立・難関私立大学への合格者増 併設大学への進学者増 (2)一人ひとりに合ったキャリア教育を推進 (3)キャリア意識を向上させるための、講演や情報提供の機会を増やす (4)生徒との個別面談を密にし、情報提供と意識の向上を図る	ア 国公立大学・関関同立等難関私大への合格者を20名以上とするために補習の充実やオンライン教材等の活用を図る。 イ 大学や業者と連携しての説明会や講演会、ガイダンスを各学年で学期に一回程度開催する。 ウ 一学期、二学期には保護者生徒を対象とした個別懇談会を全学年実施し、現状分析と学習目標、志望校の設定を行う。 エ 勉強合宿を実施し、意識と意欲の向上を図る。勉強クラブでの受験対策実施。	ア 国公立2名関関同立4名(26年度国公立2名関関同立15名) 併設大学進学者19名 イ 保護者評価アンケートで肯定意見88%(26年度89%) ウ 保護者評価アンケートで肯定意見84%(26年度86%) エ 夏期勉強合宿への参加者25名。(26年度27名) 勉強クラブ登録者87名。	ア 関関同立の合格者が大きく減少した。(△) 資格の取れる実学志向が増え、それが併設大学への進学者を増やした。次年度は、さらに生徒の意識を高めたい。(○) イウ 進路実現には保護者の理解と協力も欠かせない。次年度は90%以上をめざしたい。(○) エ この勉強合宿や勉強クラブも難関大受験生の意識の向上に寄与している。次年度は内容を吟味し、さらに参加者が増える方策を講じたい。(○)
3 思いやりにあふれた温かい学校生活	(1)学校行事やボランティア活動、部活動を通じた社会性、人間性の育成 (2)教育相談の充実 (3)人権意識を向上させ、いじめにつながる事態の早期発見と徹底対応を図る。 (4)安全健康教育・食育などの充実を図る	ア 安全安心な学校行事とするために、活動内容の点検と改善を図る。 イ 強化クラブを中心に全国レベルの出場クラブや個人を増やす。 ウ 中学では7つの習慣Jや、手作り楽器バンドーラの製作。高校では、教養講座を通して、豊かな人間性を育てる。 エ SCを交えて教育相談関係のケース会議を実施したり、外部の相談機関と積極的な連携を図る。 オ いじめ対策委員会の定期的開催と、保護者生徒へのいじめ発見のためのアンケートを年3回実施 カ 防犯教室、携帯に関する講演会、防災教室等を定期的に実施	ア 学校行事に関する保護者評価アンケートでは肯定意見が87%(26年度96%) イ 高校バレー部が春高3位。中学バレー部も中学・高校新体操部、バトン部も全国大会で活躍。 ウ 私学としての特色ある教育活動として実施し、保護者からの評価も高い。保護者アンケートで肯定意見92%(26年度95%) エオ 生徒一人ひとりの悩みや相談に応じた指導をしているという保護者アンケートの肯定意見86%(26年度90%) カ 保護者アンケートの肯定意見92%(26年度90%)	ア 文化祭、体育祭などに参観する保護者が増えている。保護者評価アンケートは肯定意見が少し下がったが、概ね好評。(○) イ 生徒のクラブ加入率を高め、全てのクラブの活動がさらに活発になるように努めたい。(○) ウ 次年度も継続し、内容の更なる向上を図りたい。(○) エオ 教育相談体制は整っているが、個別面談やアンケート等を有効に活用し、生徒保護者の状態把握に努めたい。また、相談窓口があることを機会あるごとに周知したい。(○) カ 外部機関と連携し、保護者にも参加を呼びかけて、講演会や研修会を実施したい。(○)
4 教員の授業力向上	(1)効果的な教員研修や授業研究の実施	ア 効果的な授業研究や校内研修を計画実施し、教員間での意見情報交換を活性化。ICT活用検討委員会を立ち上げ、具体的提案と研修実施。 イ 外部研修への参加と成果を共有できる体制を作る。 ウ 初任者等の研修制度の充実を図る。	ア 自己評価アンケートで肯定意見78%(26年度50%) イ 自己評価アンケートで肯定意見46%(26年度38%) ウ 自己評価アンケートで肯定意見50%(26年度40%)	ア イウエ 効果的な教員研修や授業研究、新規取組のための学校としての体制づくりが進み、自己評価がかなり向上した。次年度以降も、最重要課題として、授業研究や教員研修など教員力向上のための施策を実施し、肯定意見70%以上をめざしたい。(○)